

様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 4 月 16 日現在

研究種目： 基盤研究 C
研究期間： 2006 年度～2008 年度
課題番号： 18530088
研究課題名（和文） 東アジア政治における市民の役割に関する基礎的研究
研究課題名（英文） A Historical Study on the Role of Citizens in East Asian Politics
研究代表者 陳 肇斌（ CHEN Zhaobin ）
首都大学東京・社会科学部研究科・教授
研究者番号 40301139

研究成果の概要：

本研究は、中国における原正市氏の 20 年間にわたる農業技術普及の事例を中心に、日中両国の市民が果たしている役割を実証的に解明した。

具体的に言うと、選定した関係者の日記、書簡、メモ等一次資料および新聞雑誌記事等二次文献を収集し、それに加えて、関係者をインタビューして文字資料の不足を補い、広く資料を調査収集した。

そのうえで、政治学・歴史学・社会心理学的アプローチ、さらにはヨーロッパにおける歴史認識問題および和解の事例と比較する方法を駆使し、現代東アジアにおける相互理解および信頼醸成において、重層的な日中関係の構築に示唆を与えてくれるものを見出すことができた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,300,000 円	0 円	1,300,000 円
2007 年度	900,000 円	270,000 円	1,170,000 円
2008 年度	700,000 円	210,000 円	910,000 円
年度			
年度			
総計	2,900,000 円	480,000 円	3,380,000 円

研究分野： 社会科学

科研費の分科・細目： 政治学・政治学

キーワード： 東アジア政治、市民、日中関係

1. 研究開始当初の背景

小泉政権の時代に、東アジアにおいては、「政冷経熱」の表現がよく使われていた。このことから分かるように、日本と中国との間で、経済的には相互依存の度合いが高まり、それによって「東アジア共同体」の形成の必要性がうたわれていたが、他方では、過去の戦争に関する歴史認識をめぐって紛糾が起きていた。

政治と経済は日中関係の極めて重要な二つの側面であることは間違いないが、しかしグローバル化のなかでの日中関係の全てではないこともまた事実である。

東アジア政治をより重層的に捉えるためには、考察対象を政府活動や経済活動に限らず、重要なアクターとして活動している「市民」という要素にも拡大する必要があると考えたのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、現代東アジアの相互理解および信頼醸成において、代表的な事例に絞ってその実態を明らかにし、それを通じて日本と中国の市民がいかなる役割を果たしているかという問題を解明することである。

3. 研究の方法

まず、関係する資料を網羅的に収集することである。第一に、関係者の日記、書簡、

メモなどの一次資料を収集した。これは、選定した事例の実態を解明するもっとも基本的な作業であった。第二に、関連する新聞雑誌記事、図書等二次文献を渉猟した。一次資料の背景を明らかにする重要な作業であった。第三に、生存する関係者をインタビューして文字資料の不足を補い、広く資料を調査収集した。

次に、以上に収集した豊富な資料から学問的意味を剔出することである。その際、政治学、歴史学および社会心理学的なアプローチを駆使した。

さらには、ヨーロッパにおける歴史認識および和解の事例を調査し、選定した事例をその事例特有のものとして矮小化せず、ヨーロッパの類似した事例と国際的比較を行い、その世界史的意味を抽出するという研究方法を用いた。

4. 研究成果

主として農業技術者である原正市氏の中国における畑苗栽培技術の普及過程を解明した。

つまり、黒竜江省の海倫市と河北省の承德市、湖南省の瀏陽市における技術普及作業を通じて現地の技術者および農家との交流が行われ、相互理解が増進されたが、その実態を明らかにし、一市民の果たした信頼醸成の役割を実証的に研究することができ、重層的な日中関係の構築に示唆を与えるものを見出した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

①陳肇斌「新発見の吉田書簡 F—戦後日中関係における経済要因」『法学会雑誌』第 49 巻第 2 号、219～242 頁、2009 年、査読なし

②石田憲「日伊両国における戦争犯罪—3 つの歴史的比較視座」『南京事件 70 周年—国際シンポジウムの記録』日本評論社、200～211 頁、2009 年、査読なし

③ Ken Ishida, Criminal Guerra in Giappone e in Italia: Un approccio comparator, Tra. Da Marta Petricioli e Paola Redaelli, Italia contemporanea, numero 251, 2008, 251-260

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]
○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

陳 肇斌 (CHEN ZHAOBIN)
首都大学東京・社会科学研究科・教授
研究者番号： 40301139

(2) 研究分担者

中北 浩爾 (NAKITA KOJI)
立教大学・法学部・教授
研究者番号： 30272412

石田 憲 (ISHIDA KEN)
千葉大学・法経学部・教授
研究者番号： 40211726

(3) 連携研究者

なし